

中学校区におけるめざす子ども像 未来に向けて自らが社会の創り手となり、課題解決を通じて社会を継続・発展させていくことができる「主体的に考え行動できる子ども」 ～「時を守り 場を清め 礼を正す」子ども～										堺市立 校 長		三国丘小 安 原		学校 巧			
令和6年度 重点目標																	
◎人材の育成 ： ○J Tを通して（学校全体） ○学習規律の構築と、人権教育の推進（全学年） ○いじめや不登校の未然防止と、学びの機会の確保（全学年） ○健やかな体の育成と、子どもの安全確保（全学年）																	
・『根拠をもって伝える力』の育成と、I C Tの効果的な活用の研修 （研修委員会） ・人権意識を高め、多様性を認め合える人間関係の形成 （研修委員会） ・暴力やいじめを許さないという、人権意識や規範意識の醸成（生活指導委員会）																	
・いじめ不登校対策委員会での、組織的な早期支援体制の実践（生活指導委員会） ・狭い運動場を区画的に活用した持続可能な体育・保健教育活動の実践（保体給委員会） ・安全教育・防災教育・食育指導の推進と、安全が担保される環境整備（保体給委員会）																	
「確かな学び」の現状 令和5年度の「全国学力・学習状況調査」および大阪府の「すくすくササ」の結果からは、令和3年度以降5・6年において比較的安定した学力が定着していることが確認できた。しかし、一方で自分の言葉で思いや考えを伝えるという点では課題が見られる。そこで、今年度の研究主題を「自分の考えや思いを 根拠をもって伝え合うことができる子どもの育成～「伝え合う」授業をめざして～」とし公開授業を行い、実践を通して検証を進めていく。公開する場面は、主題に沿った提案が最も効果的に表れる授業場面で行う。このような取組を通して、より「確かな学び」の定着を図っていきたい。										「豊かな心・健やかな体」の現状 本校の学校教育目標は「学び合う子 助け合う子 たくましい子の育成」である。いじめと認められる事例もあることから、「相手の立場を思いやり、豊かな心や秩序を重んじる」「社会性を身につけるための規範意識の育成を進める」「いじめを許さないという人権意識の醸成」を中心に指導を行う。豊かな心の育成に必要な不可欠なのは、いじめや不登校の早期発見・早期解決である。指導の重点として①積極的な生徒指導と不登校対策委員会の積極的な活用、②不登校（傾向のある）子どもへの学びの機会を確保、③非行防止・犯罪被害防止教室など少年サポートセンターや警察署との連携、3点を掲げ実践していきたい。また道徳の授業力向上にも力を入れ、公開授業の機会を設定していく。							
大項目	確かな学び	中項目	I C T	ICTを活用した各学年で定められた情報活用能力の知識及び技能の習得	ICTを活用した学習展開の工夫をめざし、研修や授業研究に取り組む。	ICTを活用した授業ができる」の肯定的評価80%以上	教員アンケート	12月	○	2学期に入り、研究授業が本格化し、「伝え合う」授業の実現を目指して工夫した授業が展開されている。その中で、タブレットを使った指導にも取り組んでいる。							
					児童1人1台での活用推進のため、情報活用能力や情報モラルを育む授業を実施する。	各学年での目標について「できている」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	△	1年生への指導ができていないことが課題。2～6年生については、朝・授業中などで使用頻度を高めている。							
		人権教育	相手の立場にたって自ら考え、行動できる児童の育成	全学年で系統立てた道徳と人権の授業を行い、どの子も安心して学校に通えるように、相手を思いやる気持ちを涵養する。	「人の気持ちが分かる人間になりたいと思う」の肯定的評価85%以上	学校教育アンケート	12月	○	道徳の公開授業を通して、道徳授業の進め方についての職員研修が進められており、指導力向上が図られている。児童の心情理解を課題として取り組む必要がある。								
				授業づくり	自分の考えや思いを根拠をもって伝えることができる児童の育成（小中一貫グラブデザインに基づく）	●★低・中・高学年ごとに定めた伝える力の目標をめざした授業研究に取り組む。	「児童が自分の考えを伝えられるように指導方法の工夫を行った」の肯定的評価80%以上	教員アンケート	12月	○	研究授業では各学年が「伝える力」の向上のために工夫をし、研究討議でもその成果と課題が共有されている。各学年1回以上の研究授業は成果を上げている。						
						★話し方・聞き方の型を用いて伝える力の基礎の定着を図る。	「クラスやグループ・ペアで話すときは、自分の考えを伝え、友だちの意見もしっかり聞いている」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	△	どの教科でも「グループ活動」「話し合いの場」を大切にした学習の場を作ろうとしており、一定の成果はある。今後、定着させるために粘り強い働きかけが必要。						
		★学校生活全体を通した「伝える場」を設定し、伝える習慣をつける。	「学校生活の中でクラスやグループ、ペアで話すことができた」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	○	グループ活動ではペア・同質グループ・異質グループでの話など工夫したグルーピングによる「伝え合う場」の設定がなされ伝える習慣づくりに取り組んでいる。										
		豊かな心	人権感覚	豊かな心	一人ひとりを尊重し、温かい人間関係づくりができる児童の育成	いじめについての正しい知識をもたせ、生活のなかで活かせるようにさせる。	「いじめられている子を助けたいと思う」についての項目で肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	◎	いじめアンケートの結果を基にした迅速な聞き取りや個別対応が図られている。児童理解のため、担任、フリー、養護教諭など多くの立場の教職員の関わりが見られる。						
						規範意識	自分も他人も大切にし、率先してあいさつができる児童の育成	●学校のきまりを職員全員が共通理解し、児童に発信することにより、規範意識の醸成を図る。	「学校のきまりを守っている」の肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	12月	○	生活指導として、朝礼や終業式といった周知の機会を活用して、「きまり」の必要性和守る意義を伝え、全教職員で規範意識の醸成を図っている。				
								教師の率先垂範とあいさつ週間の充実により、あいさつの励行を進める。	「学校で先生や友だちに自分から進んであいさつをしている」の肯定的評価80%以上			◎	登校時、下校時の玄関での送迎挨拶と学校ぐるみの挨拶啓発活動により、元気な挨拶の声が校内に響いており、特に低学年児童の模範的行動が好影響を生み出している。				
	健やかな体	健康な体づくり	健康な体づくりを主体的に考え、実践する子どもの育成	●栄養教諭と担任等が連携して食育を行い、食の大切さを知らせ、朝ごはんの定着と給食の残量減をめざす。	・学校教育アンケート（保護者）「あてはまる」90%以上 ・1学期より残量を減らす	・学校教育アンケート ・堺市残量調査	・1月 ・6月、11月	○	給食時の給食カレンダーを活用した毎日の働きかけと食育だよりによる定期的な啓発活動による食育が着実に進められている。								
				児童一人ひとりが個々の課題を知り、自ら実践する力を育成するために「おうち体育」を進める。	「おうち体育を使って、体力づくりをしている」の項目での肯定的評価80%以上	学校教育アンケート	1月	○	授業での体力向上には限界があるが、本校の体力テスト結果の多くが堺平均より高くおうち体育の効果があると考えている。								
	校長より（年度末）										学校関係者評価者から（年度末）						